

## 令和6年度事業報告

令和6年度の入学定員充足率は、高等学校・高等専修学校は52.5%、専門学校は74.3%と前年度実績を下回り、今後の経営基盤安定に向けて課題を残す結果となった。入学者数の減少により学生生徒納付金収入が減収している状況ではあるが、高等学校校舎の老朽化に伴う大規模修繕や機器の入替が必要な時期でもあることから、高等学校を令和10年4月より下加治校舎へ移転させる手続きを行い、各校を1カ所へ集約することによる経費面及び業務の効率化を図ることとした。今後は、学びへのニーズの変化に対応した特色ある教育内容の実現と質の向上、充実した教育環境の整備を進めていく。学園の安定した運営を継続するためにも、入学定員確保に向けて、今後も改革を続けていくことが求められる。

事業報告の詳細については、下記の通りとなる。

### 1. 法人本部

令和6年度事業計画における目標として「内部管理体制の強化」を掲げ、各組織長のリーダーシップの下、機動的かつ柔軟に対応できる組織の構築に努めた。また、特色ある教育内容の見直しや入学定員確保に向けた募集活動にも取り組んだが、課題を残す結果となった。課題解決に向け継続的な取り組みが求められる。

令和6年度事業報告として、

- (1) 組織ごとの現状分析を行い課題を抽出。課題解決に向け継続的な取り組みを行った。
- (2) 所属内や関係部署との対話・連携の促進及び業務全体を見通す業務姿勢の浸透を図った。
- (3) 情報共有を図り、組織的な募集活動の取り組みを実施。入学定員充足に向けた継続的な取り組みを行った。
- (4) 民間企業からの協力を得て学生支援体制を構築した。
- (5) 留学生確保に向け、マッチング会を開催するなど、施設・日本語学校等との関係強化を図った。
- (6) 個々人の能力向上と活動範囲の拡大による多能工化を図った。

### 2. 大川学園高等学校・大川学園高等専修学校

学内に立ち上げられた「高等学校改革プロジェクト会議」を中心に、求められる学校づくりに向けて、「内（教育活動）の充実と外（募集活動）の充実」を推し進めた。また、令和7年度に向けた教育活動計画を策定し、普通科では「学び直し」と「選択授業」の充実を目指したブラッシュアップデーの新設、選択授業へのゲストティーチ

ヤーの招聘などに取り組むこととした。生徒募集では、令和7年度の全日型入学生徒は、80名の入学定員に対して28名、入学定員充足率は35.0%にとどまり、今後の経営基盤安定に向け大きな課題を残す結果となった。

重点目標1 定員確保に向け、「伸びしろ」を実感できる教育活動と募集活動の推進

- (1) 本校が求める生徒像の明確化による募集活動を推進した。
- (2) 中学生、保護者、中学校教員等に信頼される教育活動の推進に努めた。
- (3) 中学校教員等に「大川のよさ(面倒見が良い、成長させてくれる)」が届く募集活動に努めた。

重点目標2 生徒の成長に結びつく生徒指導・心の教育の推進

- (1) 落ち着いた学校生活に向けた積極的な生徒指導の推進に努めた。
- (2) 夏季・冬季休業中に「何でも相談窓口」を設け、生徒に寄り添った指導に取り組んだ。
- (2) 「福祉マインド」を高める授業等(心の教育)の着実な実践に取り組んだ。

重点目標3 管理と提案のバランスの取れた職務行動の推進で教育力アップ

- (1) 「学び直し」「伸びしろ」を生徒に実感させる教育活動の推進を図った。
- (2) 県内NO.1の福祉科を目指し取組んだ。
- (3) 進路決定率100%を目指し実現した。

### 3. 大川学園医療福祉専門学校

校訓「自律・協調・奉仕」の下、地域における医療・介護に携わる一員として活躍できる人材育成を通して、社会人として常に幅広い視野を持ち、正しい知識・技術力・実践力は勿論のこと、心の痛みも和らげられる医療人、心にも寄り添える福祉人の育成に取り組んだ。令和6年度国家試験の現役日本人合格率は柔道整復師76.9%、介護福祉士93.3%であった。介護福祉学科留学生は10名中7名が合格した。両学科合わせた全体での就職状況は、卒業生全体のうち94.7%の就職が決定し、介護福祉学科留学生10名も全員就職が決定した。

学生指導等の報告は以下の通りである。

#### (1) 学生指導

昨年度は前年度の反省を踏まえ、教職員と学生のコミュニケーションを重視し、学習面や生活面での悩み等を個別面談でも気軽に相談できる雰囲気作りに努めた結果、中途退学者が前年より減少した。また、資格取得に向けての国家試験対策では、定期試験や模擬試験、補習等を実施し、国家試験合格に向けた指導に力を注いだ結果、合格率は柔道整復師76.9%、介護福祉士84.0%となった。留学生においては、担当教員による日本語学習の積極的な指導・支援を行った結果、卒業生10名全員が日本語検定2級を取得し卒業した。

#### (2) 学生募集

募集定員の充足に向けて、県内外の高等学校や接骨院、日本語学校、ハローワーク等の訪問、学校説明及び体験授業等のオープンキャンパス開催、卒業生

で組織される芳友会(同窓会)との連携、介護福祉学科留学生及び委託訓練生の受け入れ、学校ホームページや教職員ブログ、動画配信などのSNS等の情報発信、大川学園高等学校生徒への内部進学講座実施等、実効ある方策を実施し募集定員充足を目指したが、令和7年度入学生は、柔道整復学科10名、介護福祉学科29名となり充足率は募集定員の55.7%にとどまった。

(3) 運営管理

年間を通して運営委員会、職員会議、部科長会議、自己評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を開催し、昨年度は両学科揃って職業実践専門課程のスタートが切れた。危機管理としては、9月に合同避難訓練及び消化訓練を実施した。また、学生や教職員への健康・安全面の注意喚起を促し、感染症や事故防止に努めた。10月に学園祭を開催し多くの来校者を迎え盛況であった。4月入学式・3月卒業式・表彰式は飯能市民会館で執り行った。

(4) 地域貢献

学校施設開放、高体連柔道大会救護活動、奥武蔵中学校駅伝大会救護活動、飯能新緑ツーデーマーチボランティア参加、飯能市・飯能警察署・飯能消防署等との連携協力を行った。

(5) 附帯事業

芳愛接骨院の運営。

柔道整復師臨床実習指導者講習会の実施。

以上